

題字の写真は、マッターホルンをスイスのツェルマットから臨む景色です。左が東壁。右が北壁。アイガーと呼ばれ三大北壁の一つです。アルプス山脈に属する標高4,478mの山。マッターホルンという名前はイタリア語で「鹿の角」。ドイツ語では、「牧草地と山頂」という意味があります。山頂はスイスとイタリアの国境になっています。

# 紅葉台



# 新聞

第140号

2024年  
7月27日

発行人：関谷 孝

## 早川家の本にまつわる話

小幡 節子

紅葉台新聞 133号では、ジャケツイバラの花について思い出話が広がりました。

本については、子どもの頃我が家には図書室と呼んでいた場所がありました。大きくなってみると「室」なんて呼ぶほどのところではない1畳ほどのスペースでした。子ども心に早川の名の入った大きな蔵書印が押されており、それが図書室と理解していたのだろうと大人になってから姉妹の話題になったことがあります。そんな本の中から中学1年の頃、文学全集「山本有三」から「路傍の石」を隠れるように読んだのが、印象に残っています。それまでは小学校のおしるし程度の本が納められている図書室の本を読んでいました。記憶にあるのは「小公子」だったかな？

我が家は祖父の代まで豊橋筆の筆屋でした。5人の子どもを残して早くに他界したため、父が家業を継げず、今の実家の地に入植。山野を開墾するために私たちもかなりの手伝いをさせられました。だから本など読んでいることがみつければ、「手伝え！」の聲がかかるまで隠れて読んでいました。それが原因か私だけが近眼です。

この図書室は長兄の代になり場所も変わり蔵書も増えました。

そんな環境が影響してかすぐ上の厚木の兄は神田通いが趣味になり、高じて蔵書1万冊。収納出来ずに厚木市に寄贈を申し出ましたがスペースがないと断られ、トランクルームへ。これも費用がかさみ、半分の約5000冊を実家の古屋へ。こんな中、ヒートショックで急死。本棚は1台¥500×30。粗大ゴミへ。蔵書は神田の書店からトラック1台と4人で始末。書店も整理に時間を要し、2か月後200万円を超える金額を受け取りました。子どもたちはそれでお墓を用意したとのこと。棺に拡げてあった本を入れたいと申し出ましたが、厚過ぎると却下されたので、文庫本を1冊にしました。今となれば笑い話です。

## 円安でも行きたい 山と森と湖の国 スイス！

岸 麗子

最近「いつか行こう」とか「そのうち」という言葉は使わないことにした。今元気で行けるときに行きたいところに行くことにした。子どもの頃に見たアニメ「アルプスの少女ハイジ」は憧れだった。それは半端ない熱の入れようだった。アニメは勿論のこと本も何度も読んだ。乾草のベッドから見える星空、ペーターの羊飼いの様子、クララのおうちのふわふわの白パンとかアルプスに想いを寄せていた。今年行こうと決めたのは「今行かないでいつ行けるのか」と切実に思ったからだ。もともと旅行が趣味であちこちでかけて「世界発見」ならぬ「未知との遭遇」にワクワクする性格が「円安で高いでしょ」の周り声を振り切って友人とアルプスの山



ツアーに出かけた！！

スイスは、さすがに観光立国。どこをとっても絵葉書のようにきれいな景色に心癒される。景色だけでなく、トイレも町もすべてが綺麗だった。外国の旅行者ではインド・韓国の若い女性（愛の不時着のロケ地巡りもあって）が目立った。かつては日本人も多かったが、今の世界の経済を反映していると実感する。

さて、スイスの中でも印象に残ったところを紹介。

1番は、サンモリッツからベルニナ鉄道に乗り、イタリアのティラーノへ。

ベルニナアルプスはイタリアとの国境です。ループ橋を渡ったり、移りゆく車窓の景色を楽死んだりした。左の写真は谷です



が、これはお友達が気に入ってスマホの待ち受けにしてくれました。

2番目は、ツェルマットからフランスのシャモニーに行き、ロープウェイでエギーユ・デュ・ミディ展望台(3842メートル)に登り、そこからモンブラン(4810メートル)を見た。モンブランはあの有名なケーキモンブランがこの山から誕生したことは有名です。右上のまあるいお山がモンブラン。優しい形でした。眼下に雲海が広がり、絶景でした。



3番目は、ルツェルンという街からピラトゥス登山列車に乗ってピラトゥス展望台にあるホテルに泊まりました。その登山列車は急な勾配をぐんぐん登っていき、まるでアトラクション？みたいで楽しかったですよ。2132メートルのところにあるホテルで、ユングフラウの絶景や野生のシュタインボック（絵本「3匹のガラガラドン」のモデルになった野生のシカ）にも遭遇してドキドキしました。



山の説明をすると、手前からアイガー(3970m)、メンヒ(4107m)、ユングフラウ(4158m)の三山が並んでいます。【写真参考】湖も多く、左下の写真は朝日が湖面に輝いて本当に夢のような世界で素敵でした。今回は、マッターホルンが雲に隠れて全貌が見られなかったのが残念でした。それでも有り余る山々が圧巻でした。

スイスは、世界的に有名な高い山があります。本格的な登山は無理と思っても、かなりの標高まで登山列車やケーブルカー、ロープウェイなどで連れて行ってくれるので、万人に雄大で美しい山々を楽しませてくれるところが、スイスの魅力なのかなと思いました。さて、次は・・・ともう次の旅行を考えるとところからもう私の旅行が始まっています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。